

2019年7月号 簿記論 つぶ問

1問目

【問題】

X社はY社を現金で買収し、取得企業となった。そこで、次の問に答えなさい。

(問) X社によるY社の買収に関する以下の資料に基づいて、買収時点におけるX社の会計処理を示しなさい。

【資料】

- (1) 買収時点におけるY社の貸借対照表には、現金1,000千円、土地25,000千円(時価30,000千円)、借入金6,000千円(時価5,000千円)、それぞれ計上されていた。
- (2) Y社には継続中の研究開発プロジェクトが存在しており、X社が買収に際して当該仕掛研究開発の価値を見積ったところ、19,000千円と算出された。
- (3) 買収のためにX社が支払った現金は、52,000千円であり、このうち1,000千円はコンサルタントによるアドバイスに対する手数料であった。

【解答】（金額の単位：千円）

(借) 現	金	1,000	(貸) 借	入	金	5,000
土	地	30,000	現		金	52,000
仕掛	研究開発	19,000				
支払	手数料	1,000				
の	れ	ん				
		6,000				

【解説】（金額の単位：千円）

企業結合の会計処理である、パーチェス法の手順について確認した問題です。研究開発に対して支出された金額は、「研究開発費等に係る会計基準」によれば、すべて支出した期の費用として処理することになりますが、企業結合によって取得した場合には、資産計上されます。ちなみに、資産計上自体については会計基準（企業会計基準第23号『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正）が存在していますが、計上後の研究開発費の処理については明文の定めはありません。

また、企業結合の付随費用については、取得原価に含めるのではなく、別途費用として処理することが求められます。このため、子会社株式については、個別上は付随費用を含めて資産計上する一方で、資本連結を行う際には、付随費用部分を減額してから、資本連結処理を行うことが求められます。本問に関連する内容なので、あわせて押さえておきましょう。